

研究開発プロジェクトの ダイバーシティを進めるために アンケート報告

※H30年発表の速報版に一部クロス集計結果を追加

2019年 3月 26日



科学技術振興機構

アンケート概要

男女雇用機会均等法(1984年)や男女共同参画社会基本法(1999年)の精神の下で男女共同参画基本計画が策定され(現在第4次(2014年~))、2015年には女性の職業生活における活躍の推進に関する法律が施行されました。女性研究者の活躍推進についても、内閣府や文部科学省、大学や独法等により①トップの研究者の増加②環境整備③裾野拡大に関するさまざまな取り組みがなされてきましたが、日本の女性研究者比率は15.7%(2017年)と未だ低い水準であり、公的資金による研究開発プロジェクト(以下「プロジェクト」という。)への参画もまだ少ない状況です。

JSTではプロジェクトへの女性の参画が少ない理由や課題を抽出し、増加策を検討するため以下の通りアンケートを実施しました。

実施期間: 2017年12月8日~31日(24日間)

回答者数: 1,259人

回答方法: Webサイト(無記名式)

対象者: 研究開発業務に携わる者

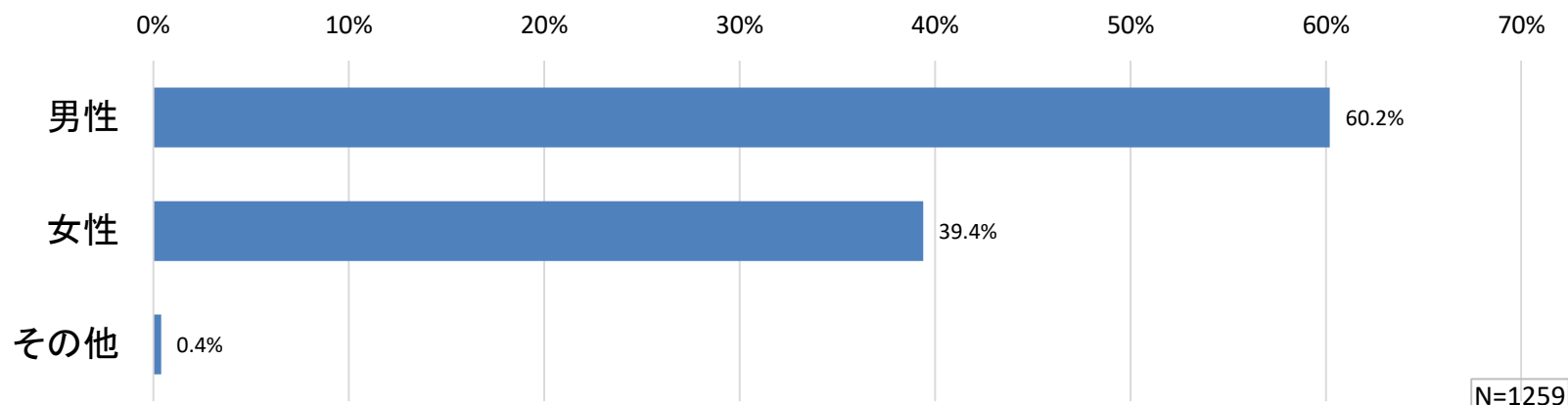
研究開発プロジェクトのダイバーシティを進めるために

回答者属性

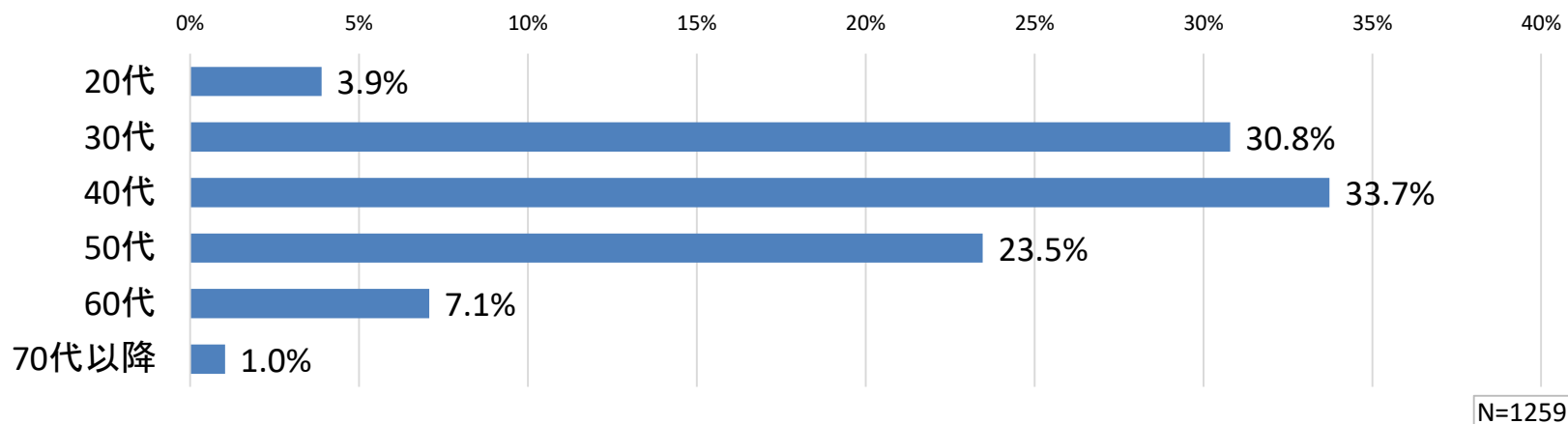
回答者属性

(1/6)

性別



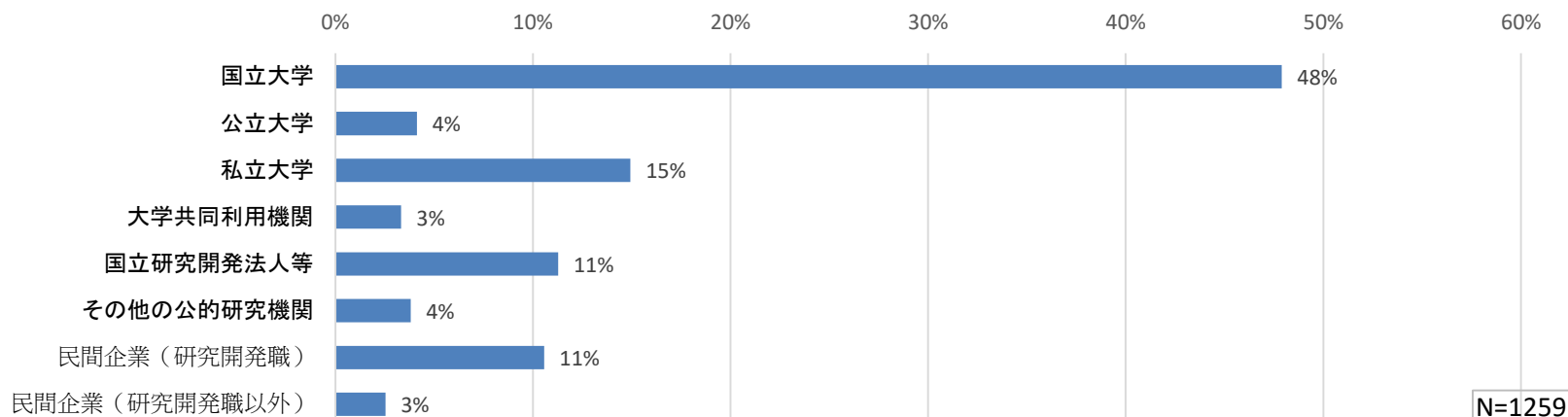
年代



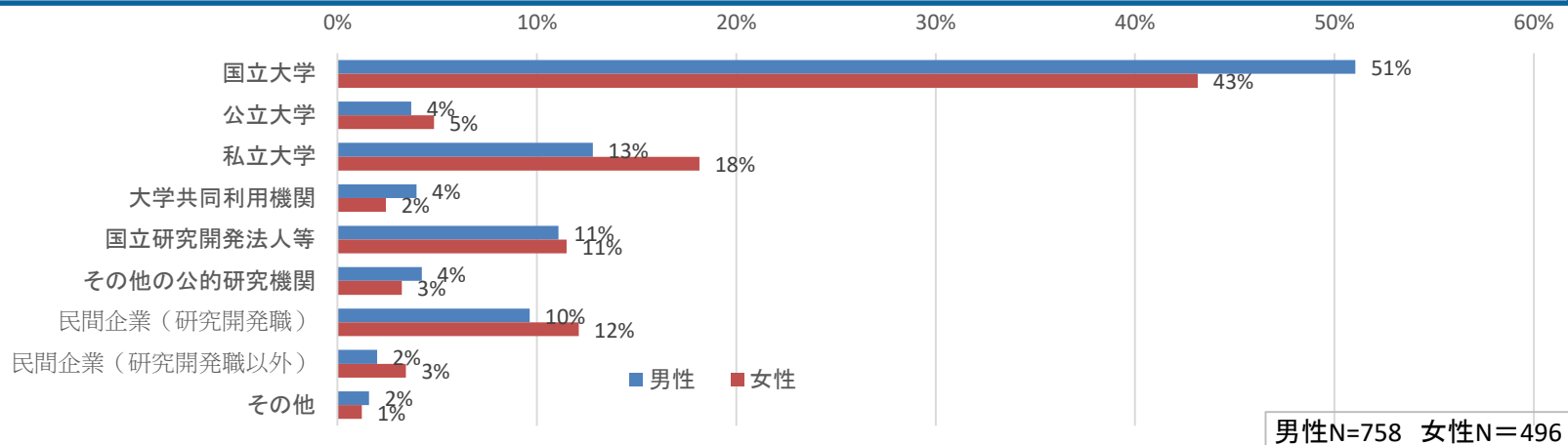
回答者属性

(2/6)

所属



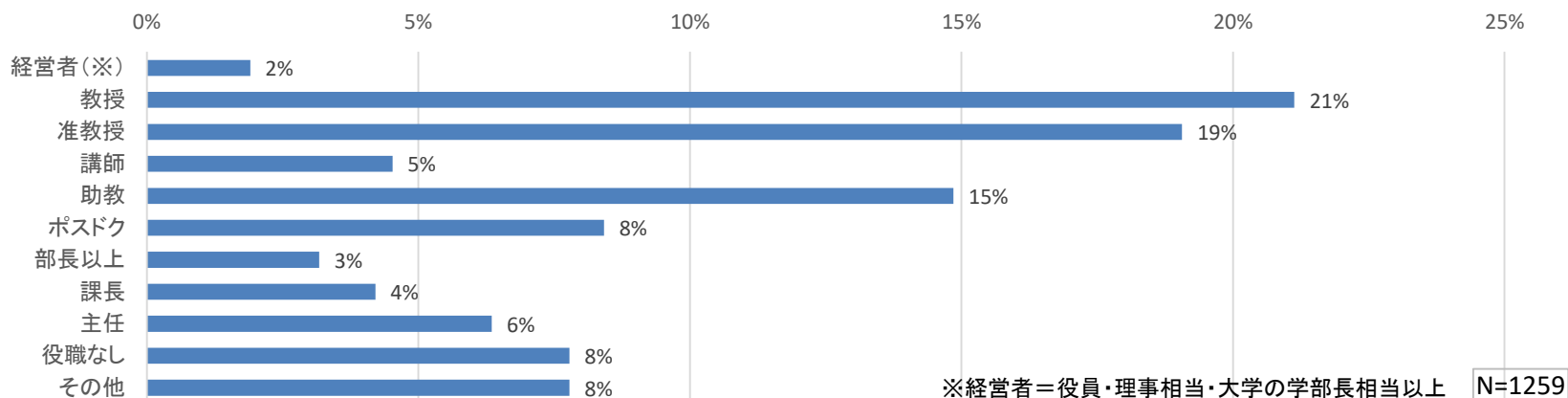
性別



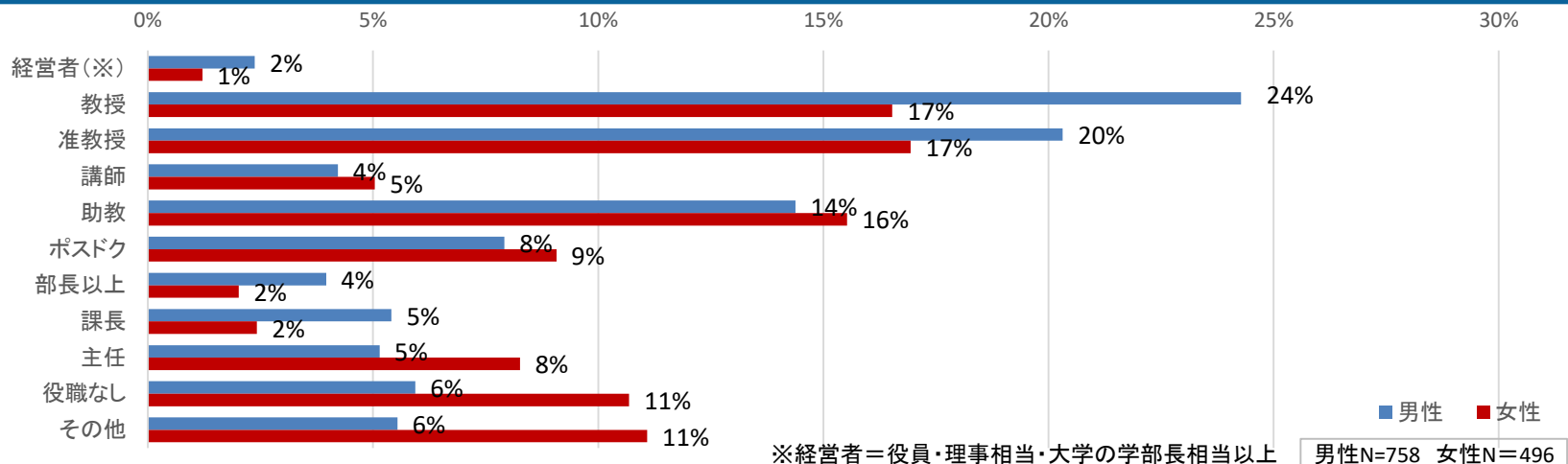
回答者属性

(3/6)

職制



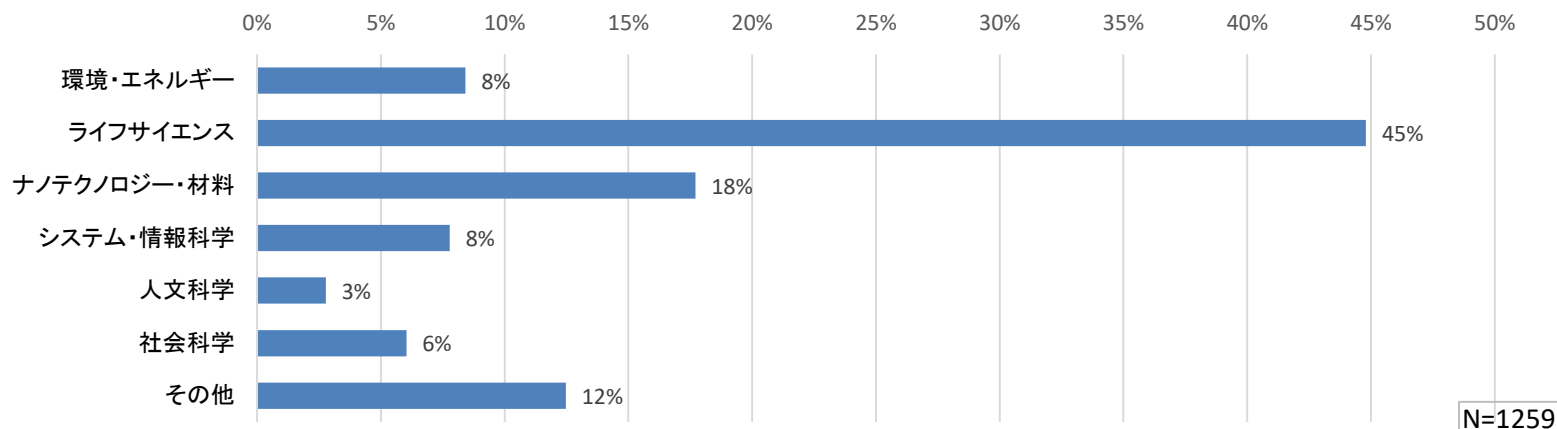
性別



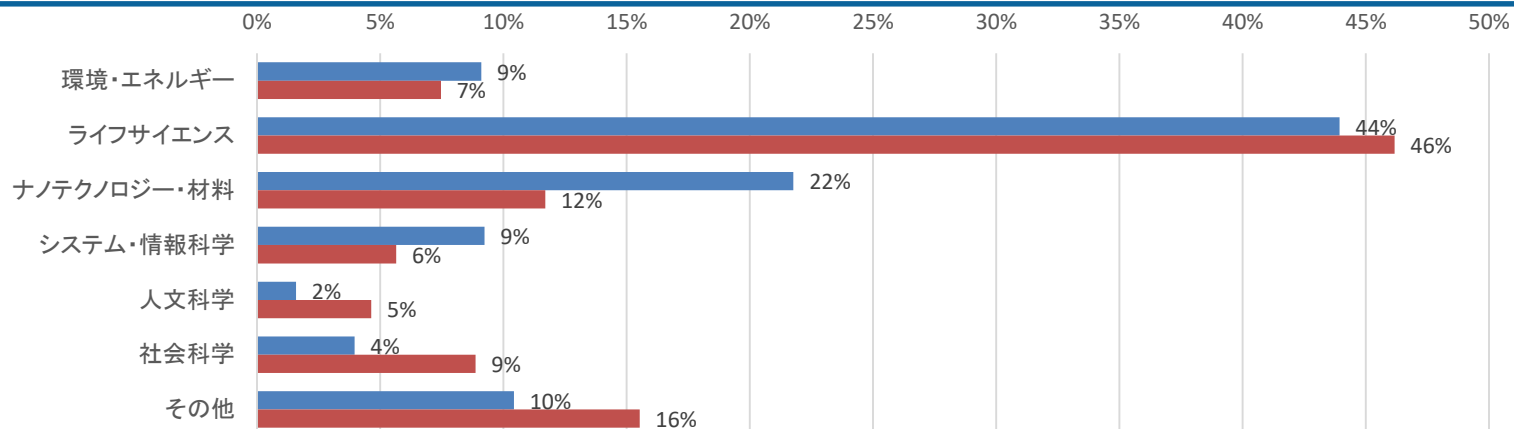
回答者属性

(4/6)

分野



性別

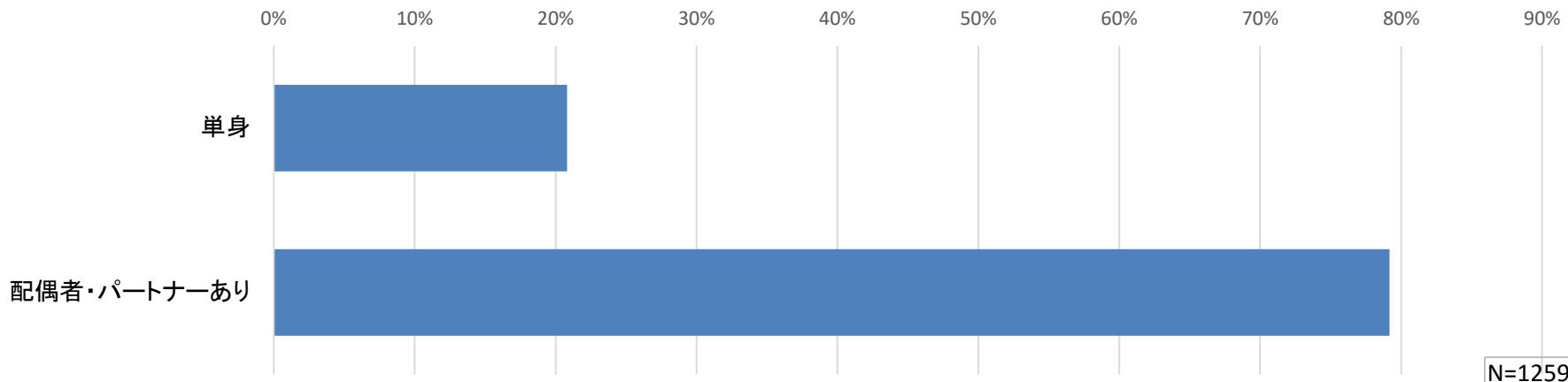


男性N=758 女性N=496

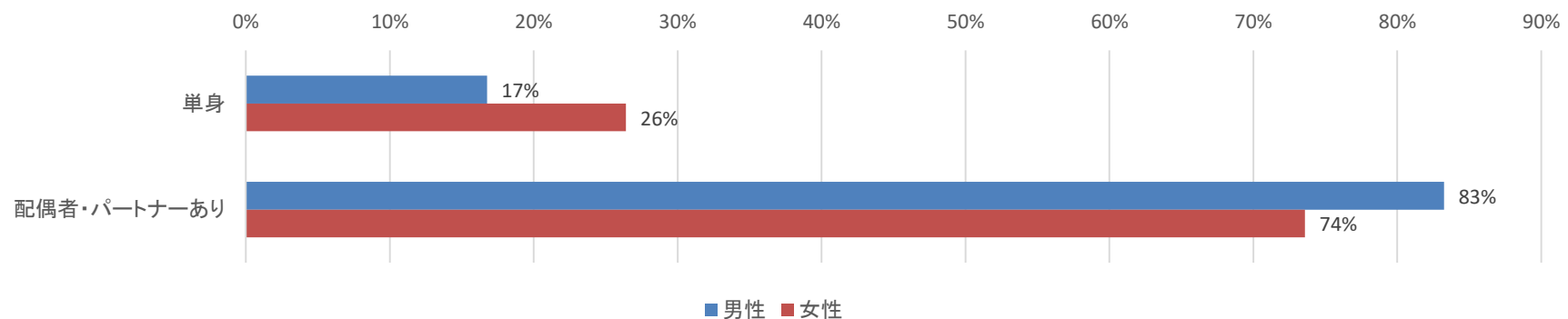
回答者属性

(5/6)

婚姻等について



性別

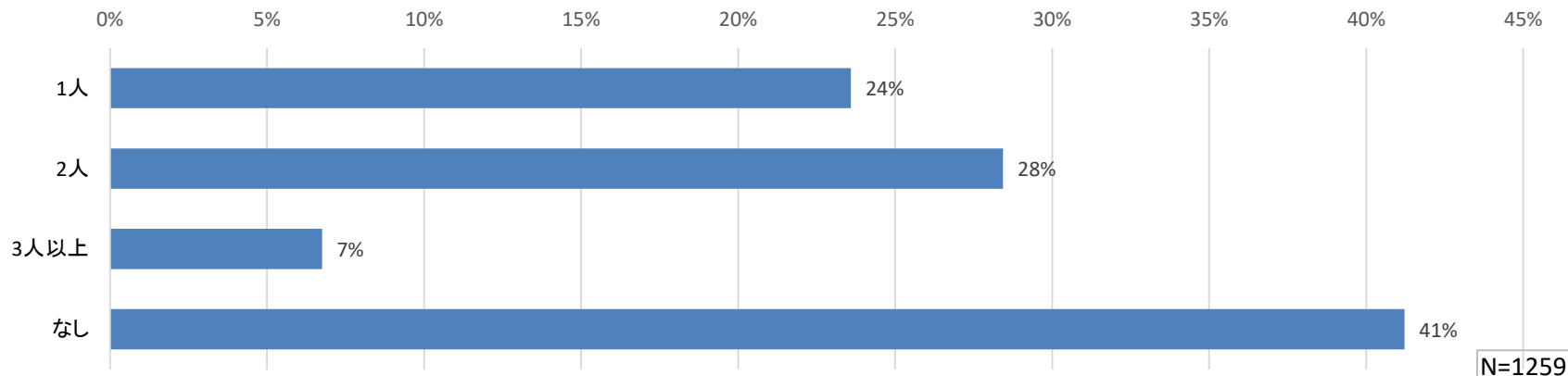


男性N=758 女性N=496

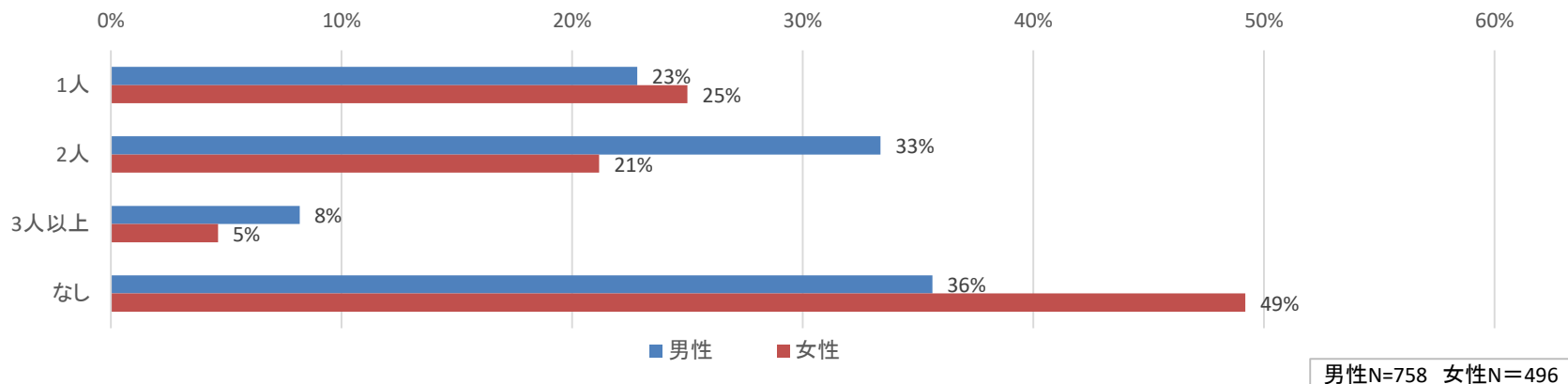
回答者属性

(6/6)

養育する子の有無について



性別



研究開発プロジェクトのダイバーシティを進めるために

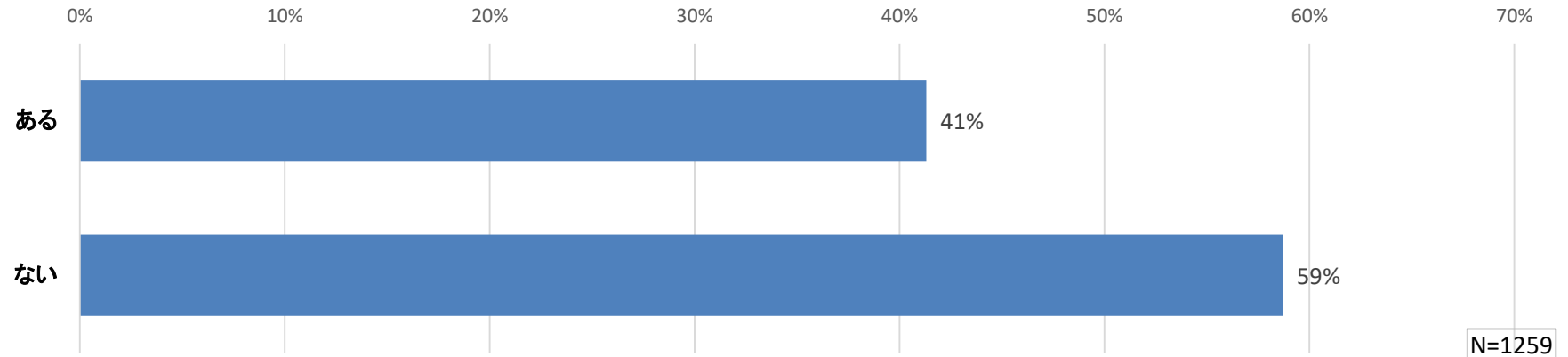
設問

設問1

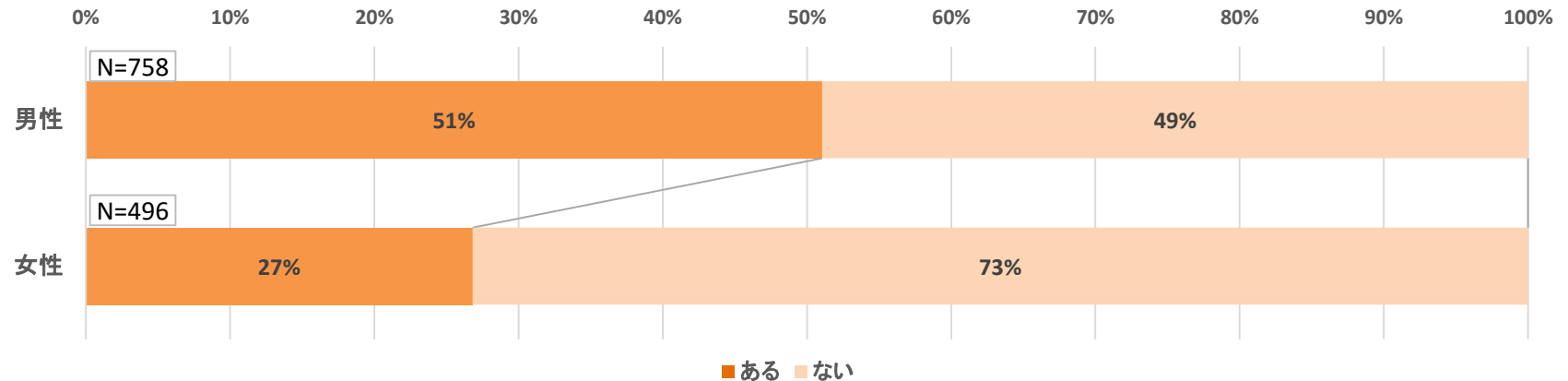
(1/23)

単回答

JSTの研究開発プログラムに応募したことはありますか



性別

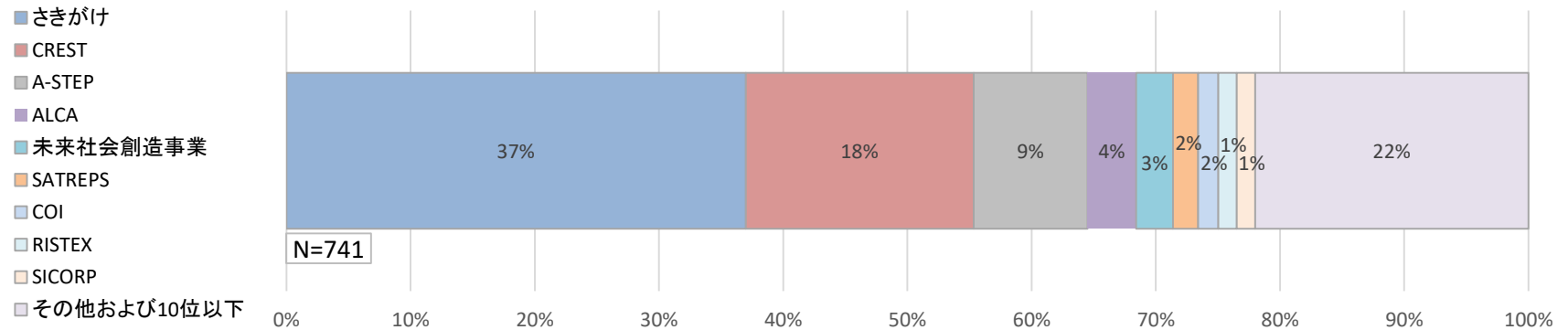


設問2

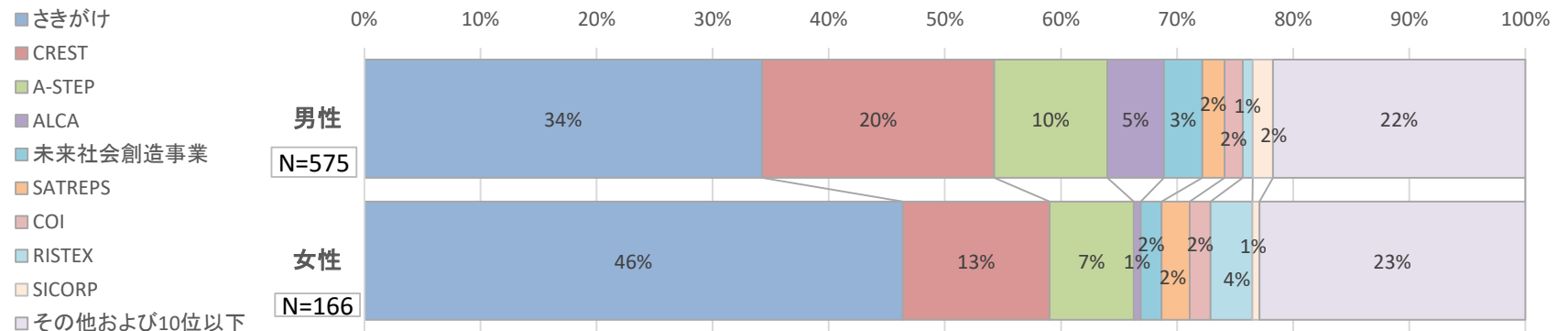
(2/23)

複数回答

JSTの研究開発プログラムに応募されたことがある方、
応募された制度名をご記入ください。



性別



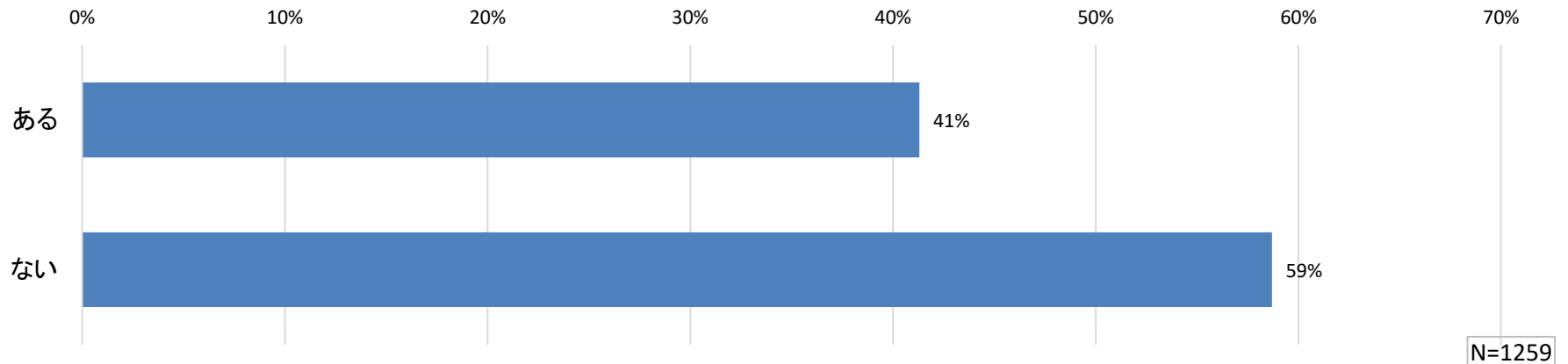
※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含みません。

設問3

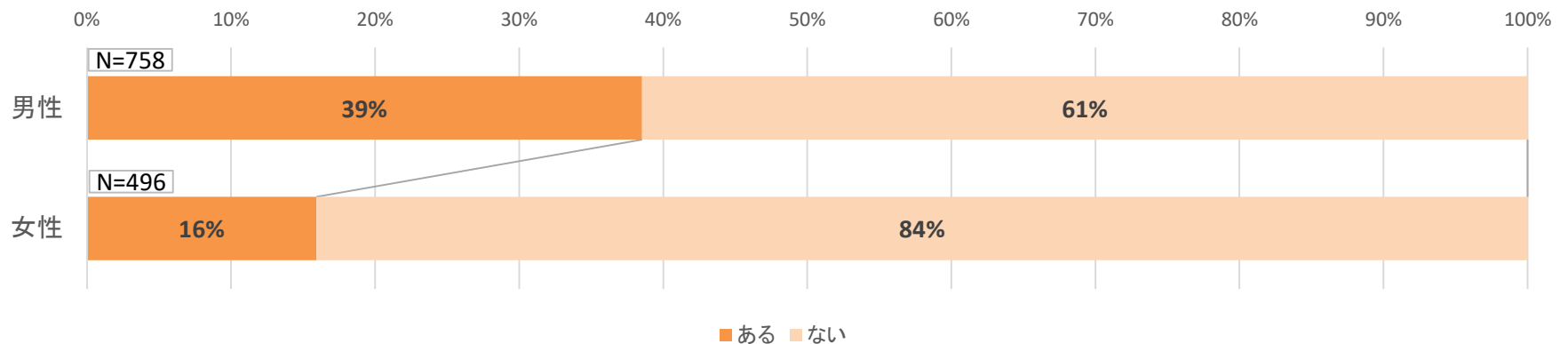
(3/23)

単回答

JSTの研究開発プログラムに採択されたことはありますか



性別

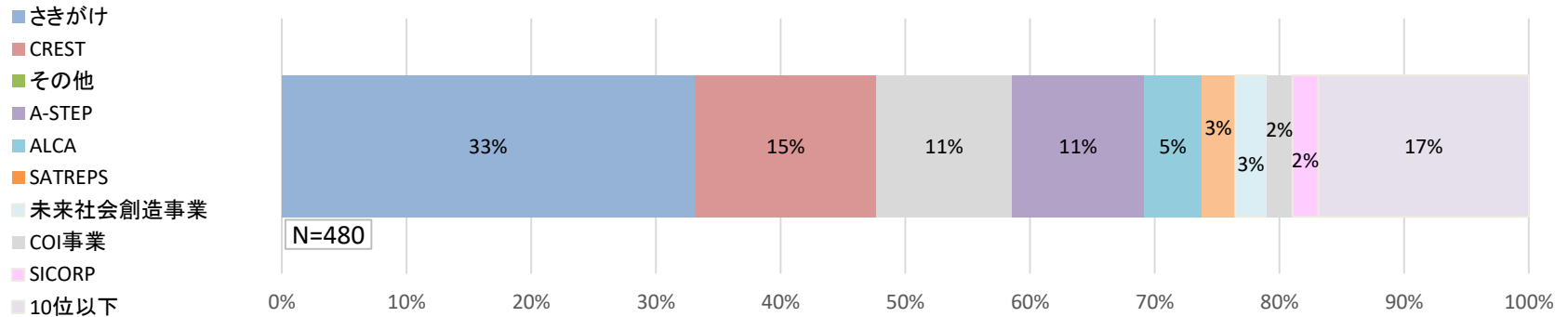


設問4

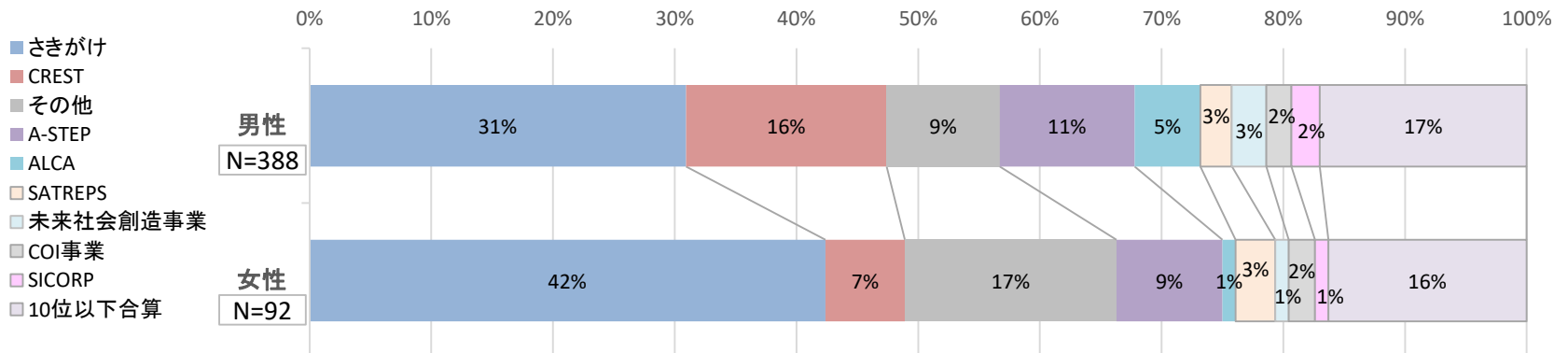
(4/23)

JSTの研究開発プログラムに採択されたことがある方、
採択された制度名をご記入ください。

複数回答



性別

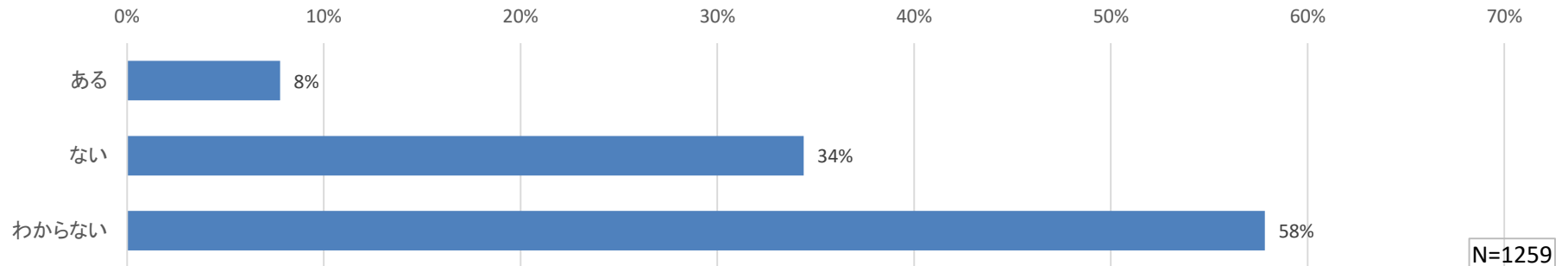


設問5

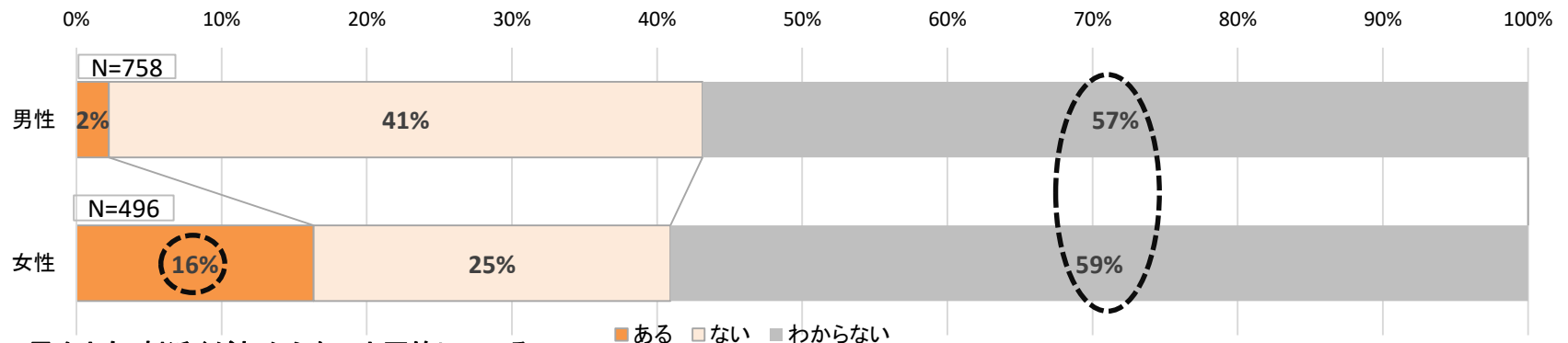
(5/23)

単回答

JSTの制度を含む公的資金による研究開発プロジェクト等に関し、女性であることが採択に不利になると感じたことはありますか。



性別



男女とも6割近くがわからないと回答している。

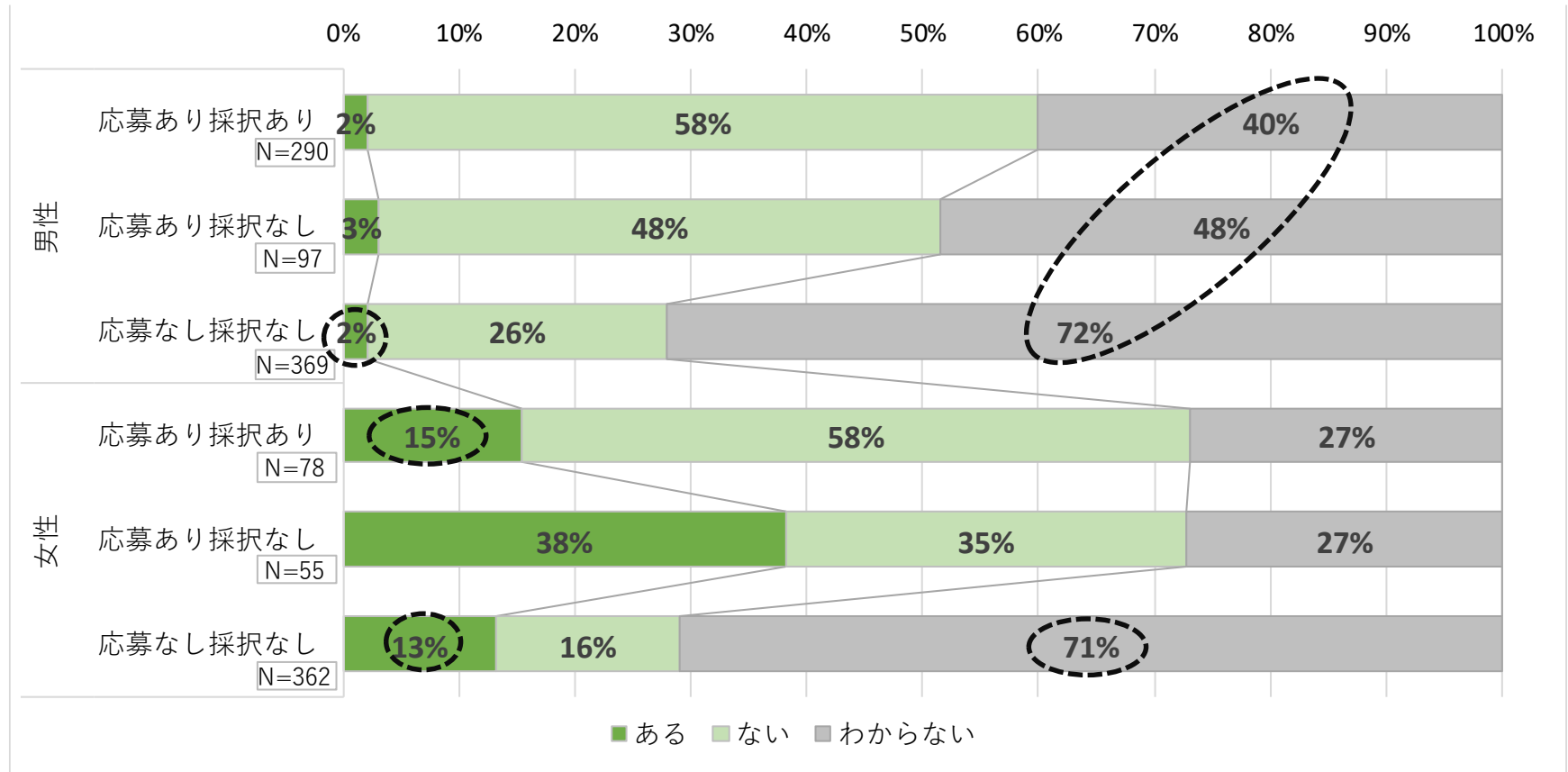
しかし、「女性であることが不利」と感じる層を見ると、男性が思う以上に女性は「女性であることが不利」と感じている。

※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含みません。

設問5

(6/23)

JSTの研究開発プロジェクトに対する応募・採択の有無 による内訳



「採択あり」でも15%の女性が不利と感じている。

応募経験がある場合、男性は女性に比べて「わからない」が多く、女性が不利かどうか実感にくい。

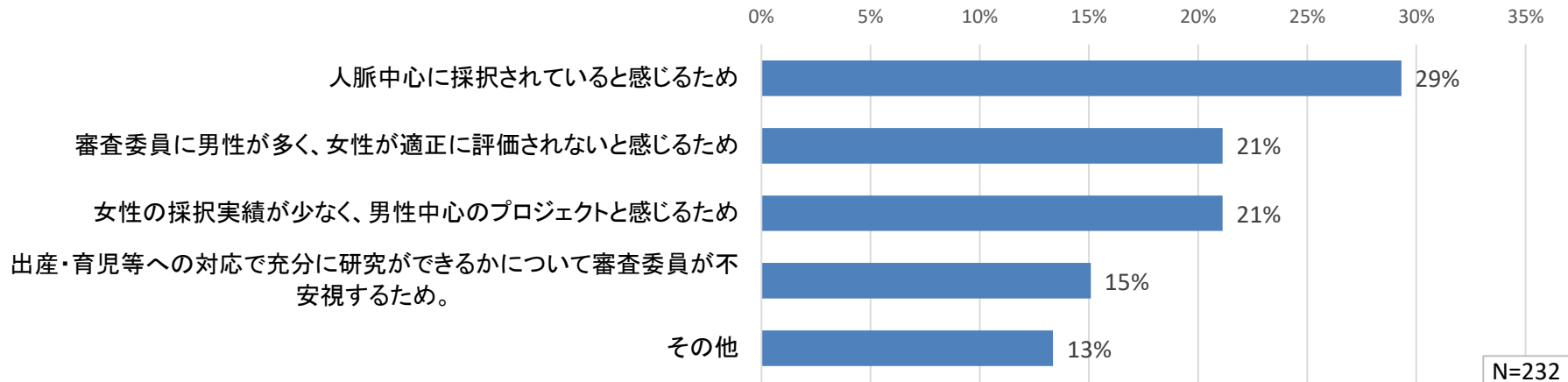
応募・採択経験がない場合、「わからない」は男女ほぼ同率(男性72%、女性71%)だが、不利と感じているのは女性が多い(男性2%、女性13%)。

設問6

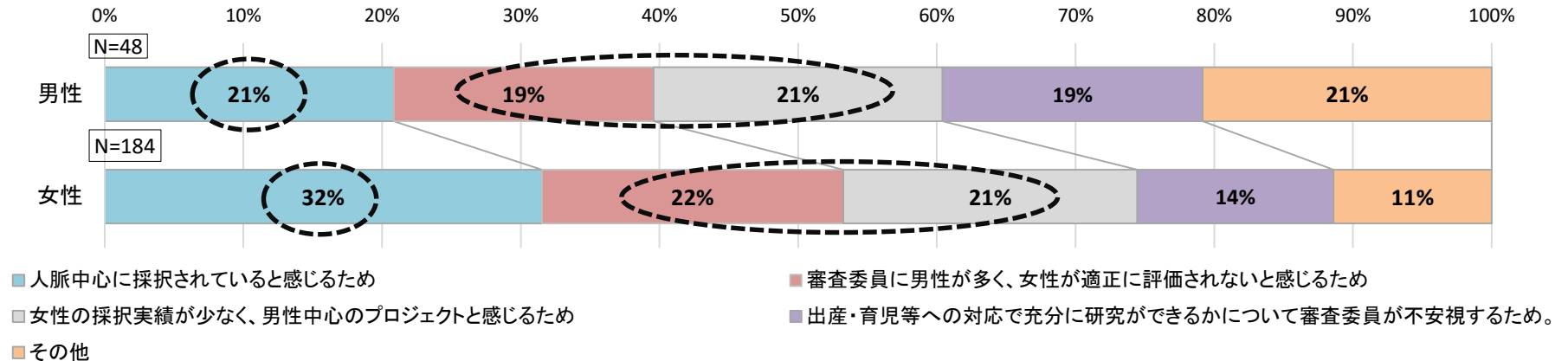
(7/23)

(前問:公募で女性は不利と感じる)で「ある」と答えた方、理由は何ですか。

複数回答



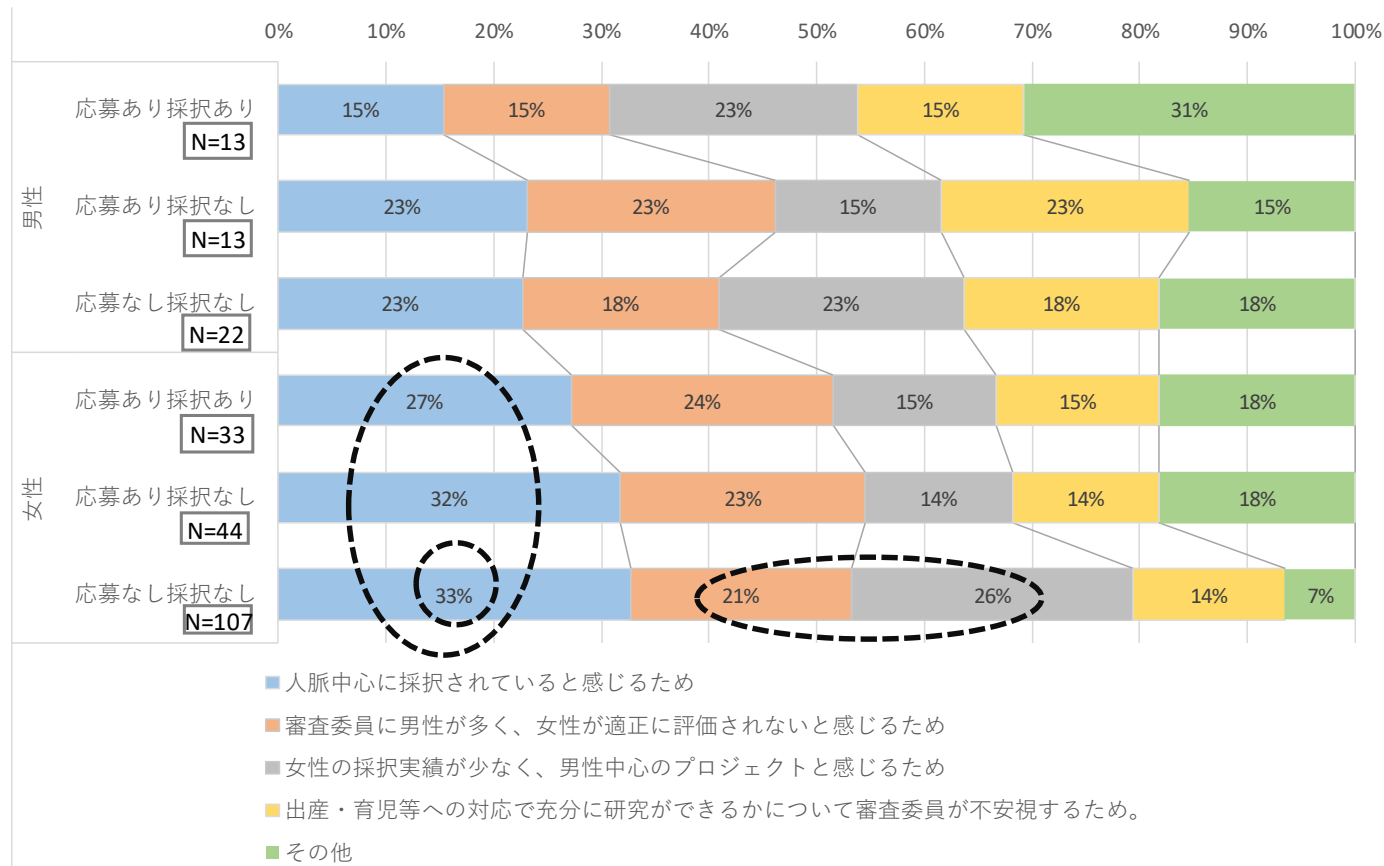
性別



設問6

(8/23)

JSTの研究開発プロジェクトに対する応募・採択の有無 による内訳



男女とも人脈・男性が中心で女性が応募しにくいと感じている。特に男性が思う以上に女性は「人脈中心に採択されている」と感じている。

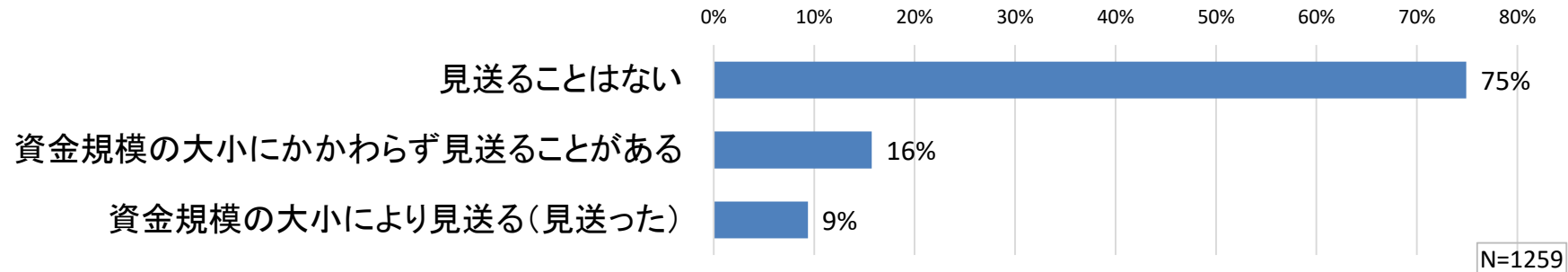
応募・採択の有無に関わらず、女性は「人脈中心に採択されている」ことを不利である理由と感じる理由に挙げる割合が最も多い。「応募なし」の女性はより「男性中心のプロジェクト」であるため女性が応募しにくいと感じている。

設問7

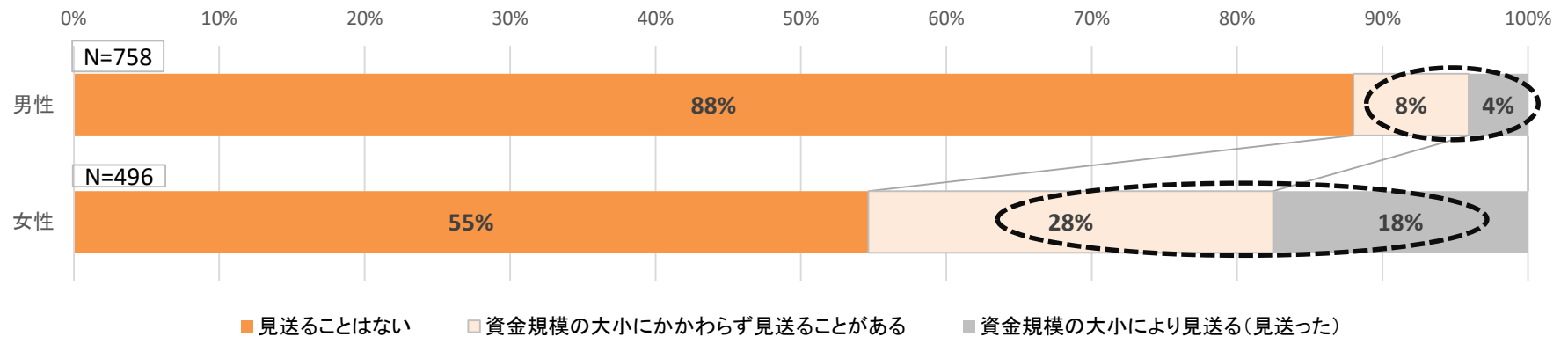
(9/23)

単回答

JSTの制度を含む公的資金による研究開発プロジェクト等に関し、「出産・育児等によって十分な研究開発時間が取れない」という理由で応募を見送ることはありますか(ありましたか)。



性別



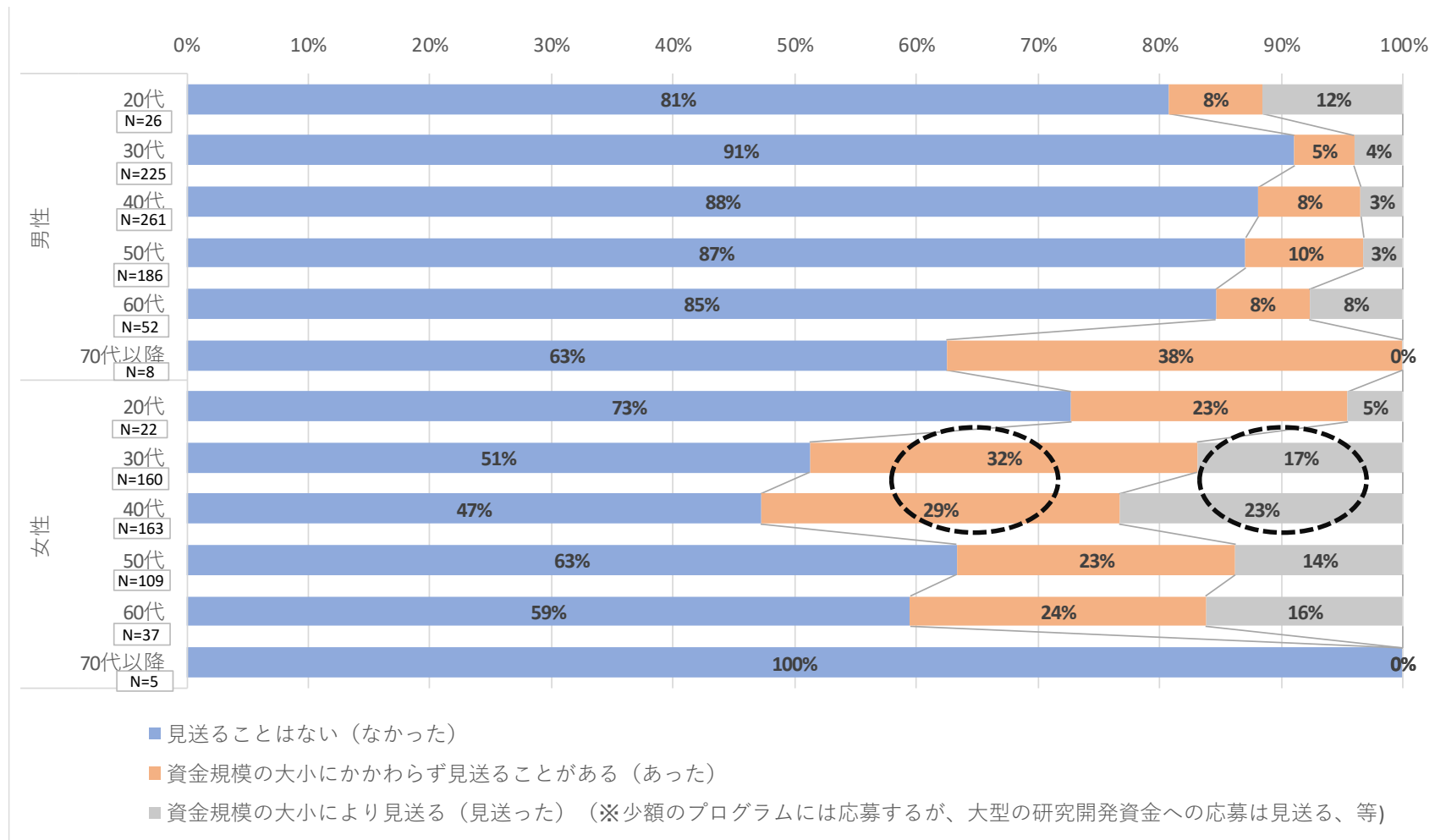
何らかの形で応募を見送ったことのある男性は合わせて12%、対して女性は40%と男性の3倍以上

※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含みません。

設問7

(10/23)

年代別の内訳



見送ったことがあるのが最も多いのは30代・40代女性。40代になると資金規模により応募するケースが増加する傾向。

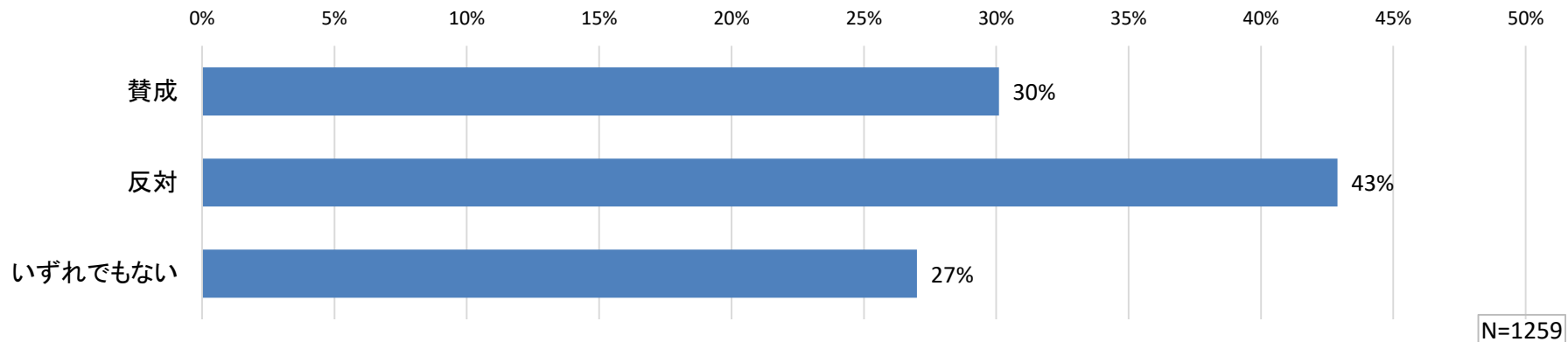
※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含みません。

設問8

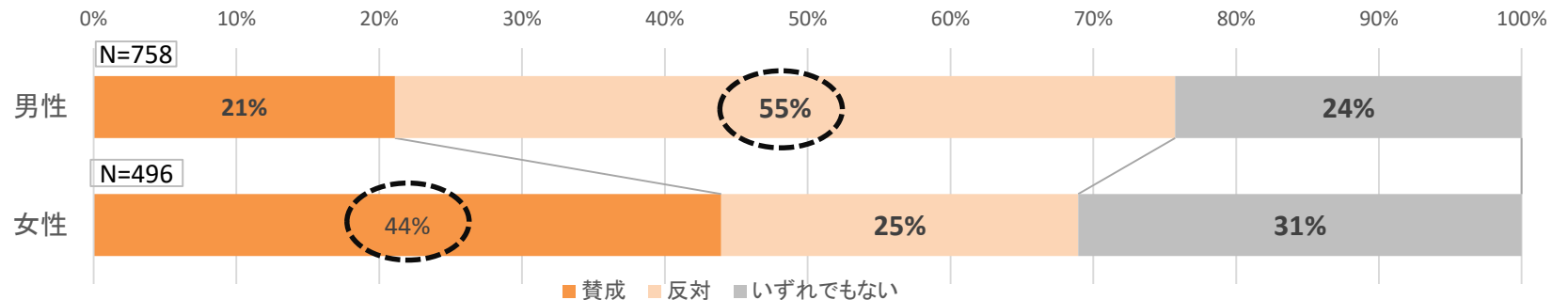
(11/23)

公的資金による研究開発プロジェクト等において「女性枠(※)」を設けることについてどう思いますか。 ※選考で採択される研究代表者に、女性採択枠を設けること

単回答



性別



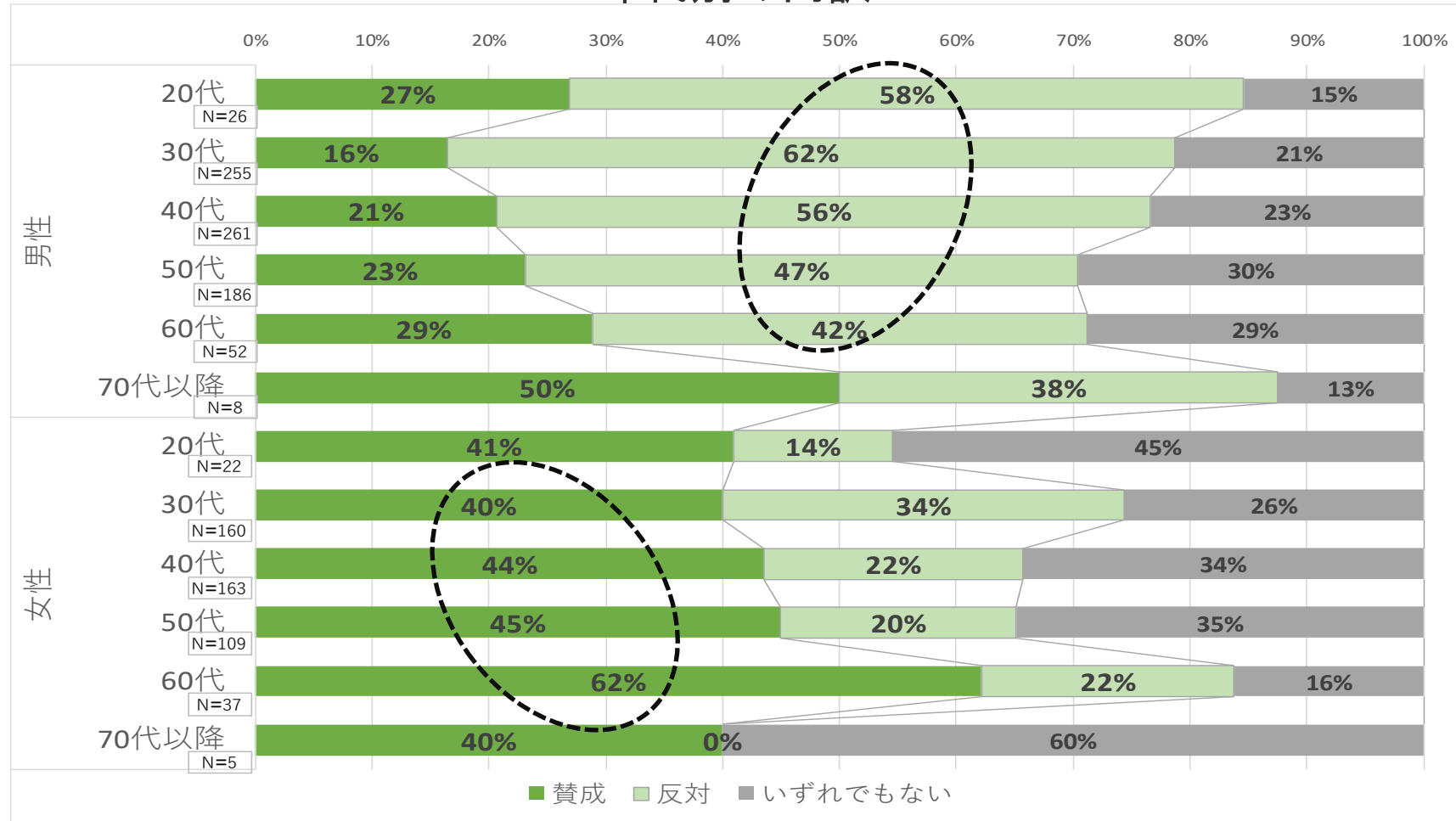
男性は過半数の55%が反対で最も多く、女性は賛成が44%でもっとも多い。

※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含みません。

設問8

(12/23)

年代別の内訳



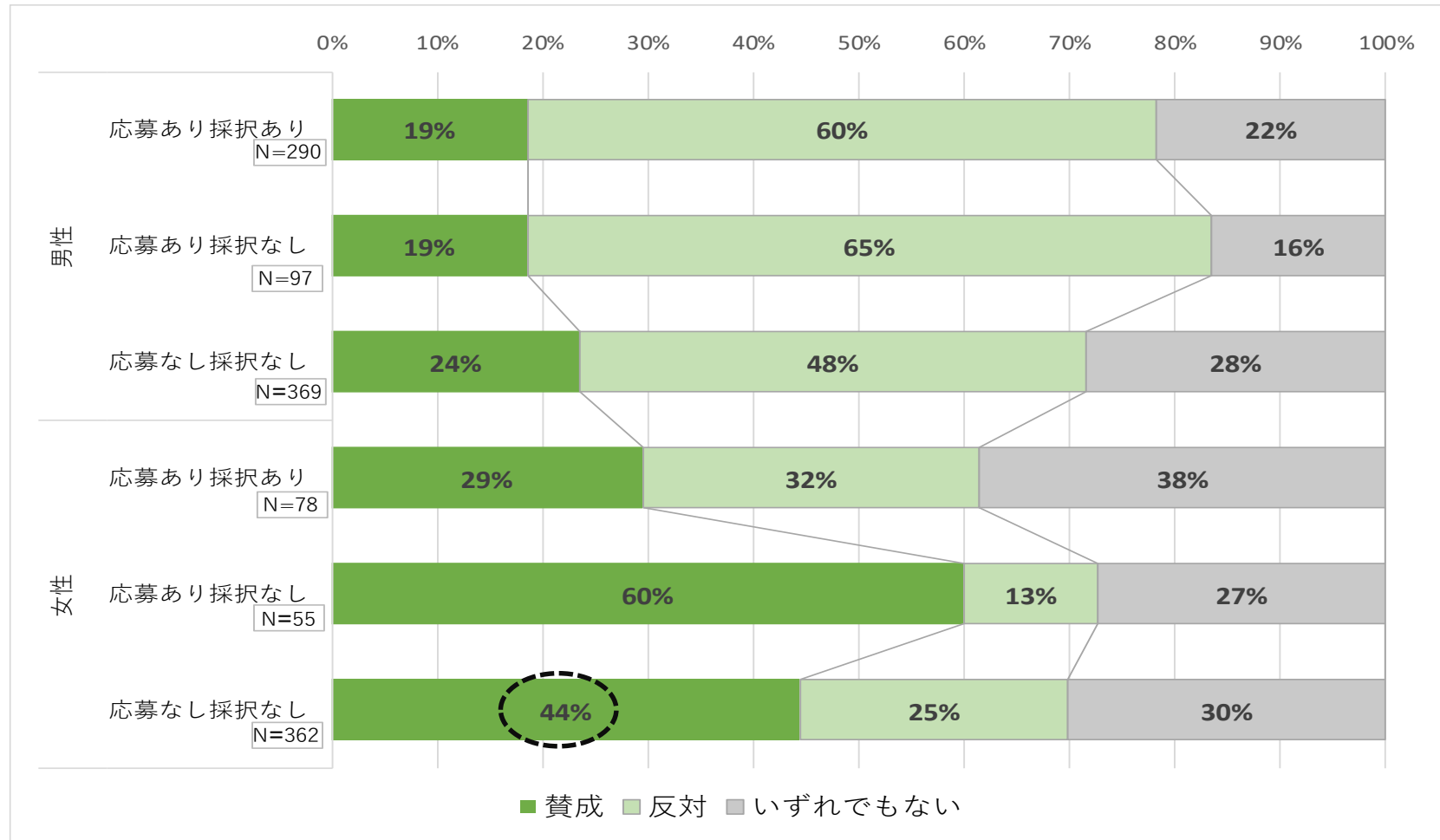
男性は多くの年代で反対が一番多い。特に20~40代は半数以上。女性20~60代は賛成が一番多い。その中で反対が多い年代は30代(34%)。賛成が多いのは60代(62%)。

※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
 なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含まれません。

設問8

(13/23)

JSTの研究開発プロジェクトに対する応募・採択の有無 による内訳



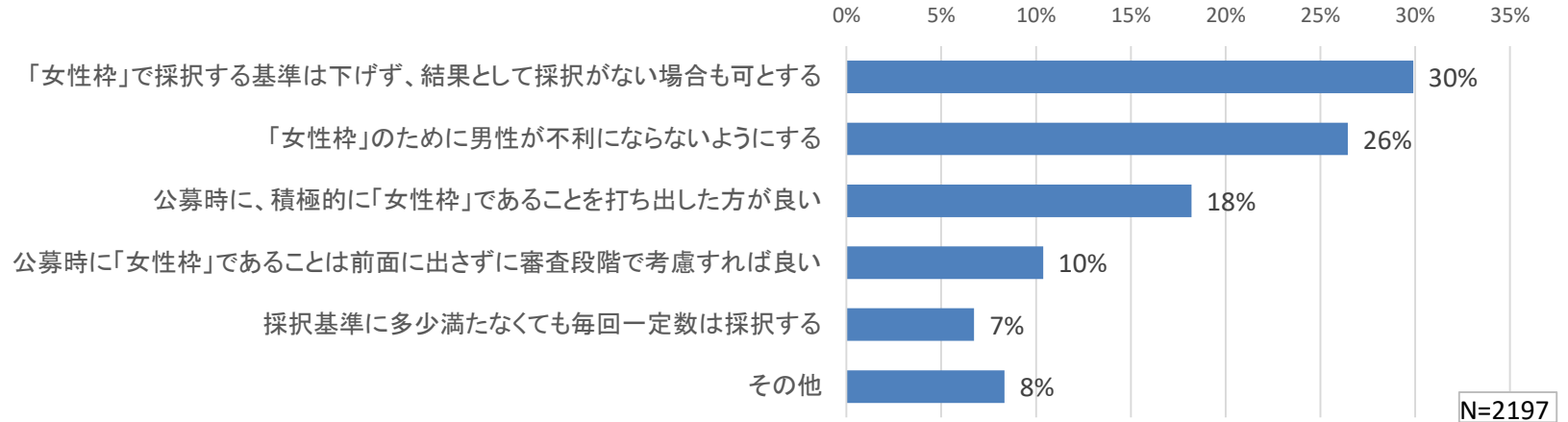
「応募なし」の女性の賛成が44%あり、女性枠の設定が女性の応募を増やすひとつの方策となる可能性はある。

設問9

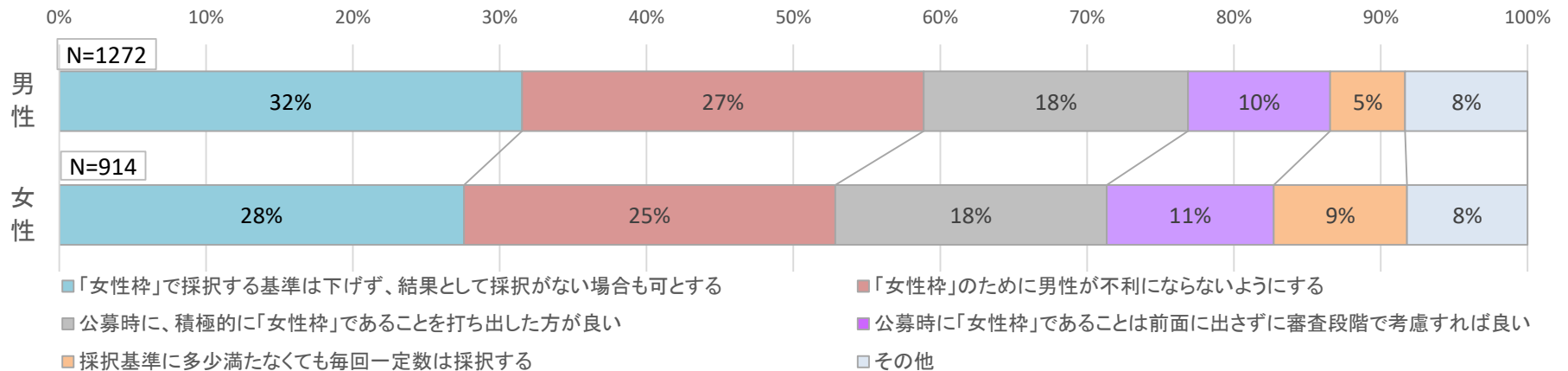
(14/23)

複数回答

女性枠を設定する場合はどのように運用するべきかをお答えください。



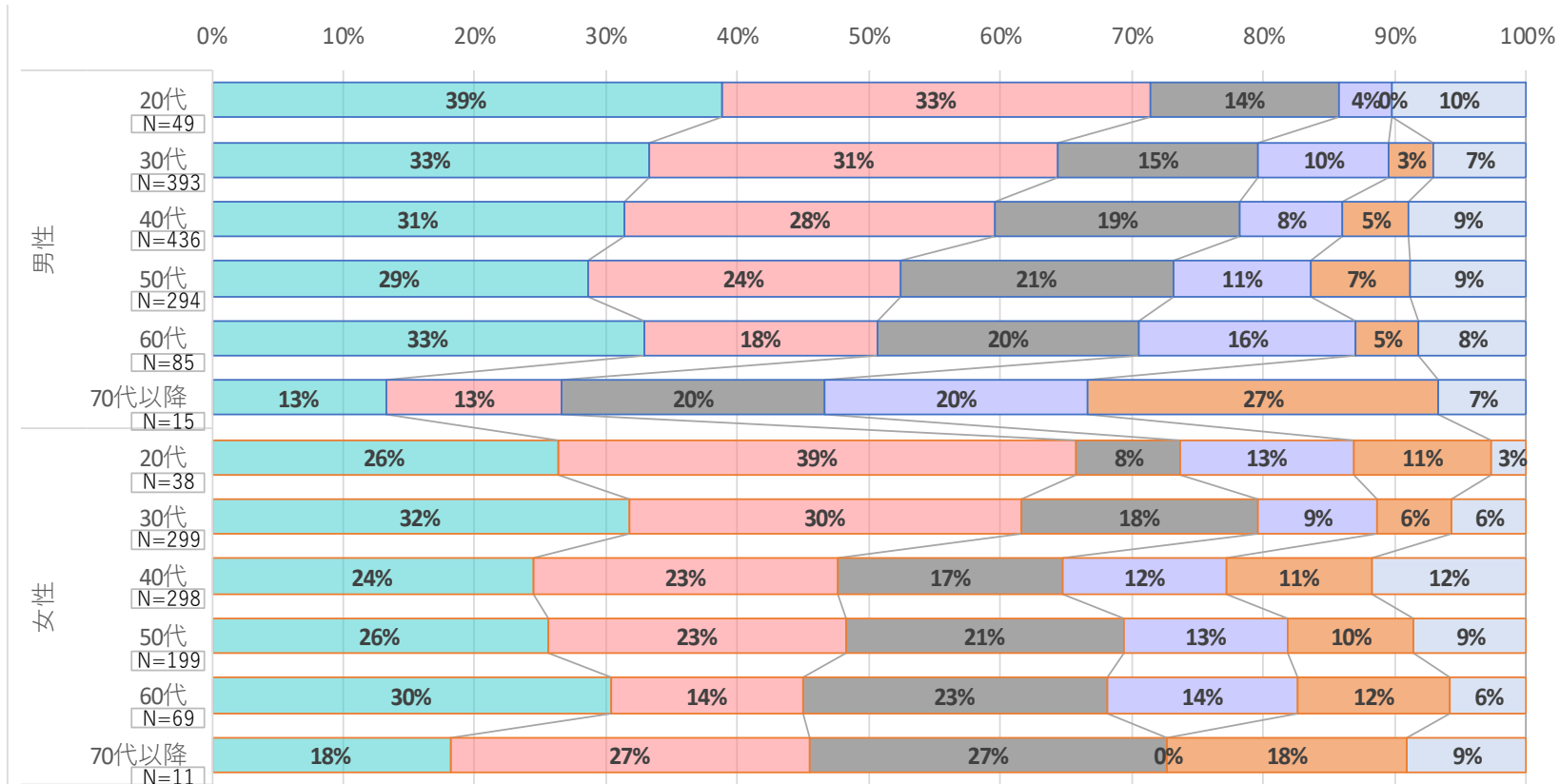
性別



設問9

(15/23)

年代による内訳



- 「女性枠」で採択する基準は下げず、結果として採択がない場合も可とする
- 「女性枠」のために男性が不利にならないようにする
- 公募時に、積極的に「女性枠」であることを打ち出した方が良い
- 公募時に「女性枠」であることは前面に出さずに審査段階で考慮すれば良い
- 採択基準に多少満たなくても毎回一定数は採択する
- その他

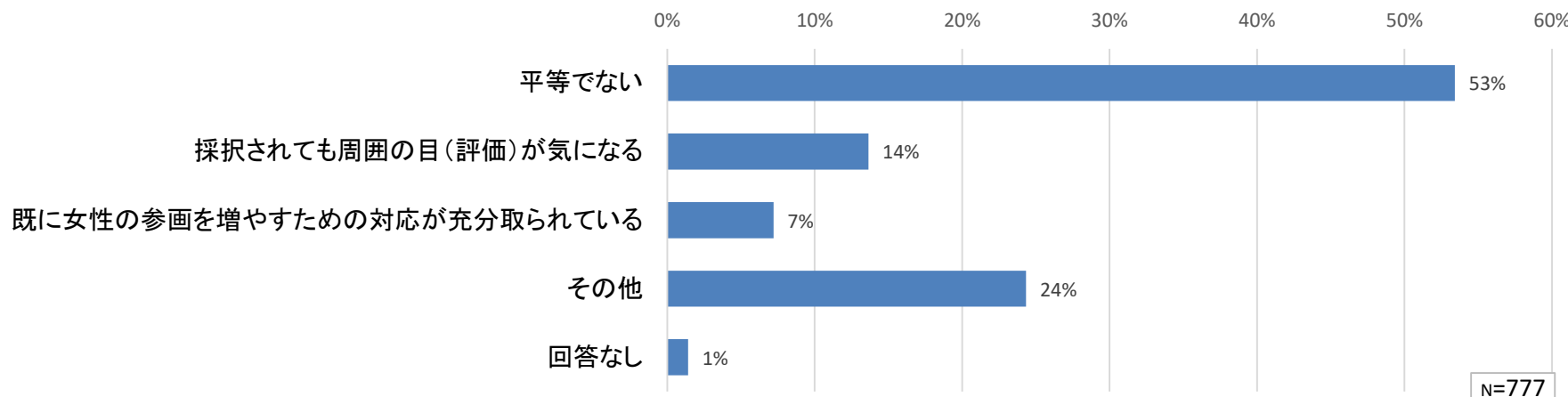
※性別集計は、それぞれ男性を100%、女性を100%とした数値となります。
 なお、性別「その他」については全体の0.4%であったため、この速報では性別の集計に含まれません。

設問10

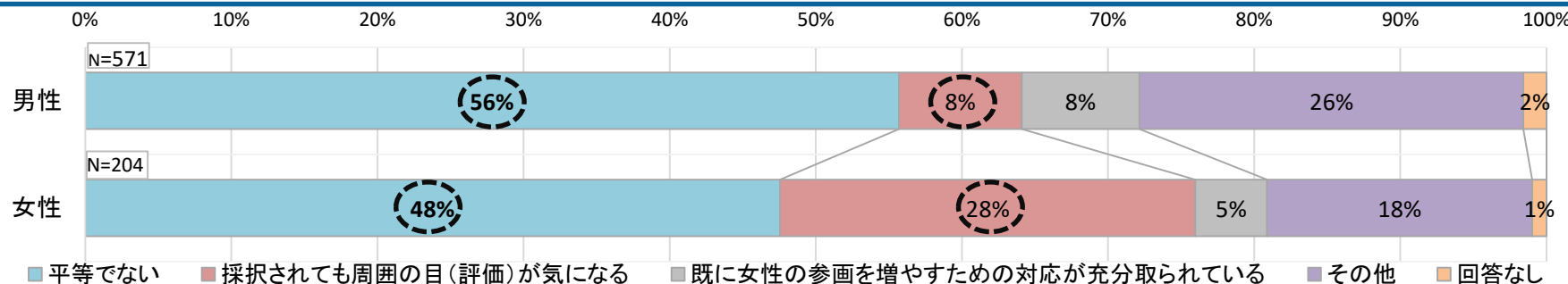
(16/23)

(前々問:女性枠の是非)で「反対」と答えた方、理由は何ですか。

複数回答



性別



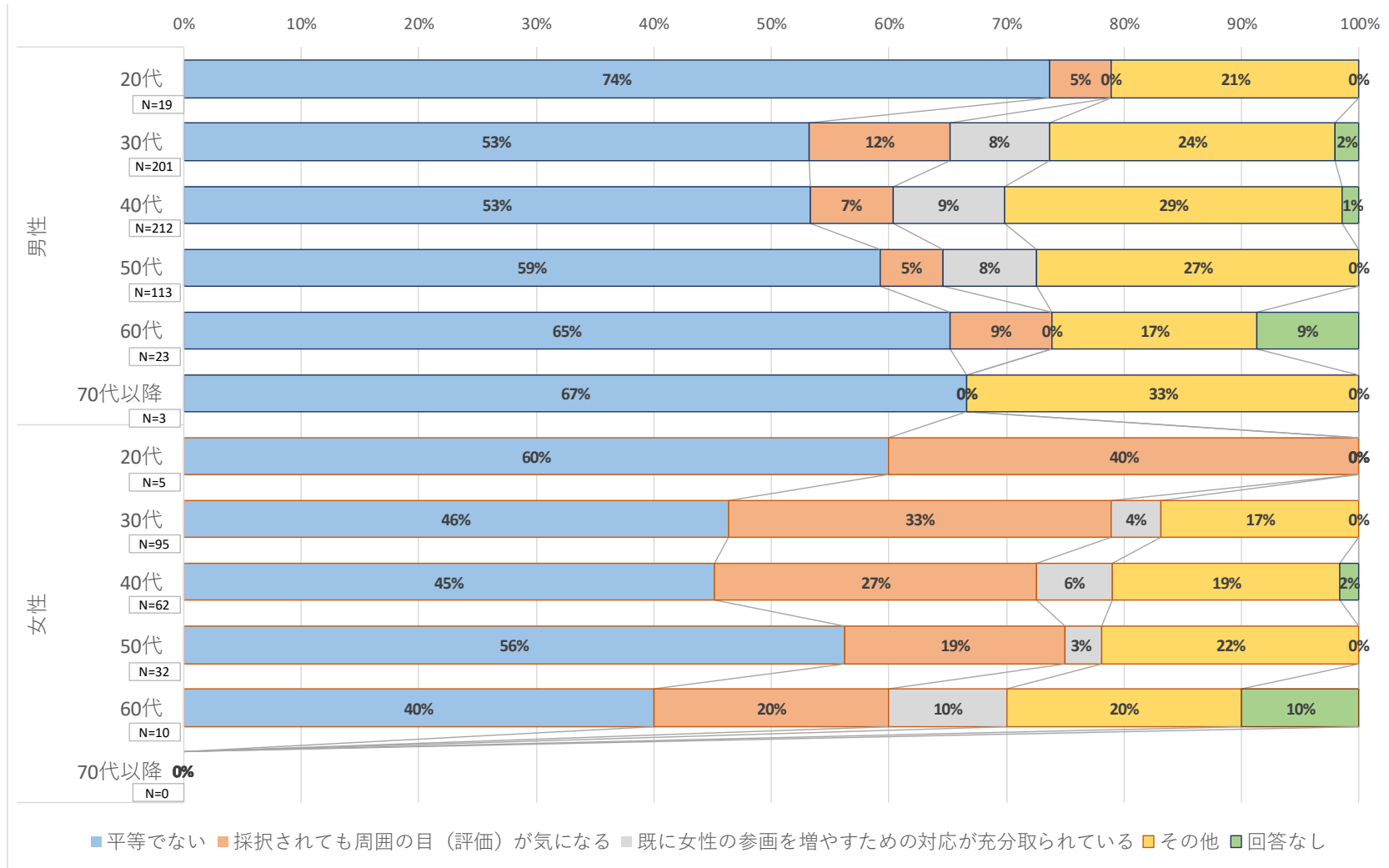
男女とも「平等でない」が最も多い。

男性が思う以上に女性全体では「採択されても周囲の目(評価)が気になる」(28%)と感じている。

設問10

(17/23)

年代による内訳

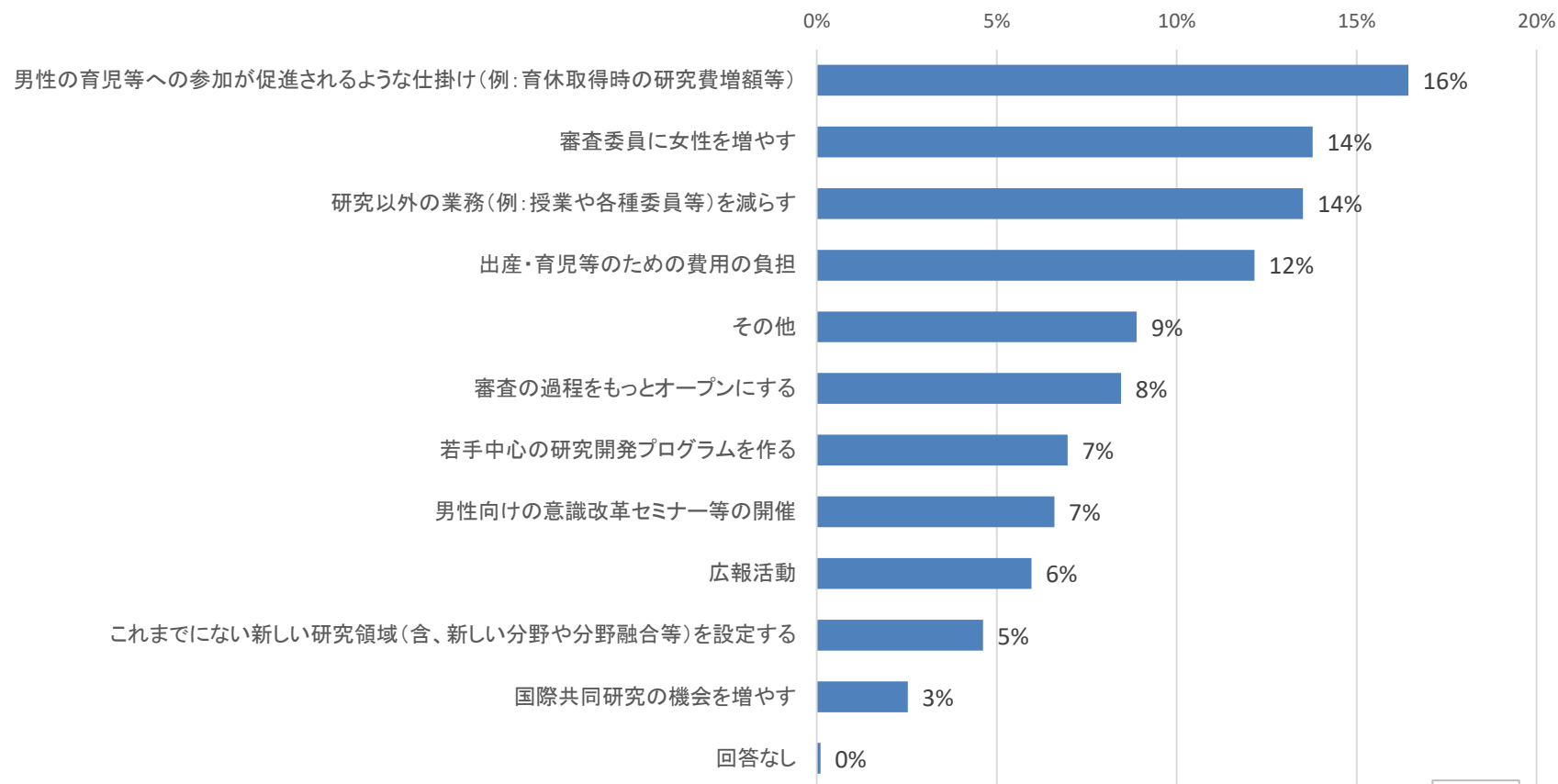


設問11

(18/23)

「女性枠」以外に女性の応募件数を増やすために効果的なことはありますか。

複数回答



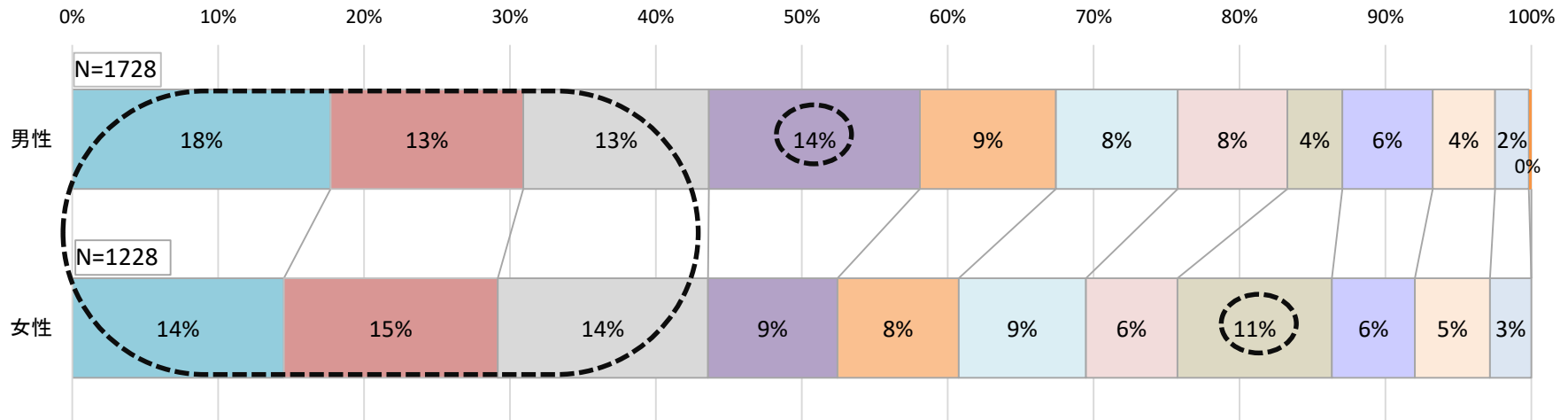
N=2969

設問11

(19/23)

複数回答

「女性枠」以外に女性の応募件数を増やすために効果的なことはありますか。(性別)



- 男性の育児等への参加が促進されるような仕掛け(例: 育休取得時の研究費増額等)
- 審査委員に女性を増やす
- 研究以外の業務(例: 授業や各種委員等)を減らす
- 出産・育児等のための費用の負担
- その他
- 審査の過程をもっとオープンにする
- 若手中心の研究開発プログラムを作る
- 男性向けの意識改革セミナー等の開催
- 広報活動
- これまでにない新しい研究領域(含、新しい分野や分野融合等)を設定する
- 国際共同研究の機会を増やす
- 回答なし

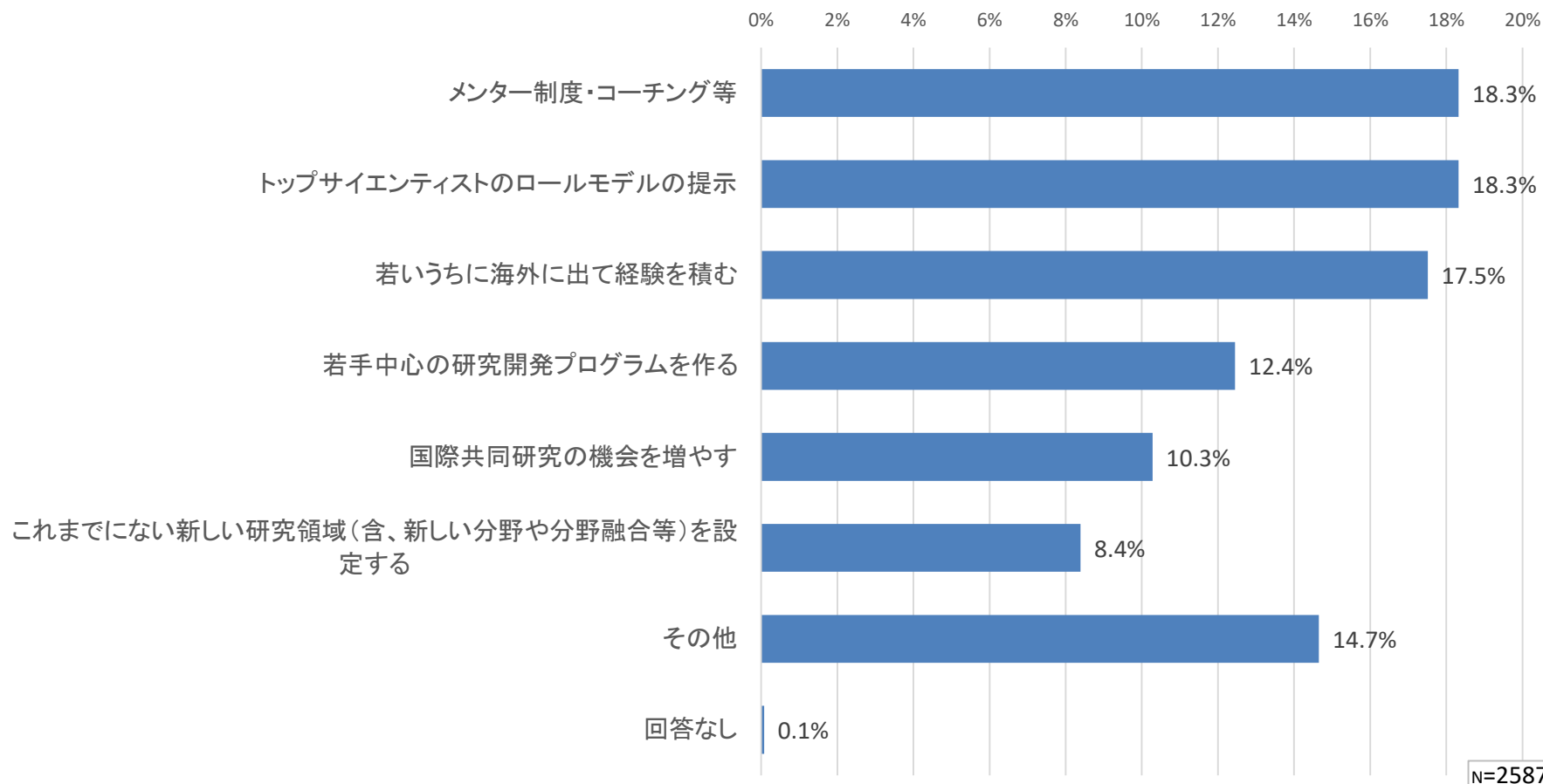
男女とも意見は様々であり突出した意見はない。
男性が思う以上に女性は「男性の意識改革が必要」と感じている。また、女性が思う以上に男性は「出産・育児等のための費用の負担」が大事だと思っており男女の意識の差がある。

設問12

(20/23)

女性のトップサイエンティストを育成するために効果的と思われる方策はどれですか。

複数回答

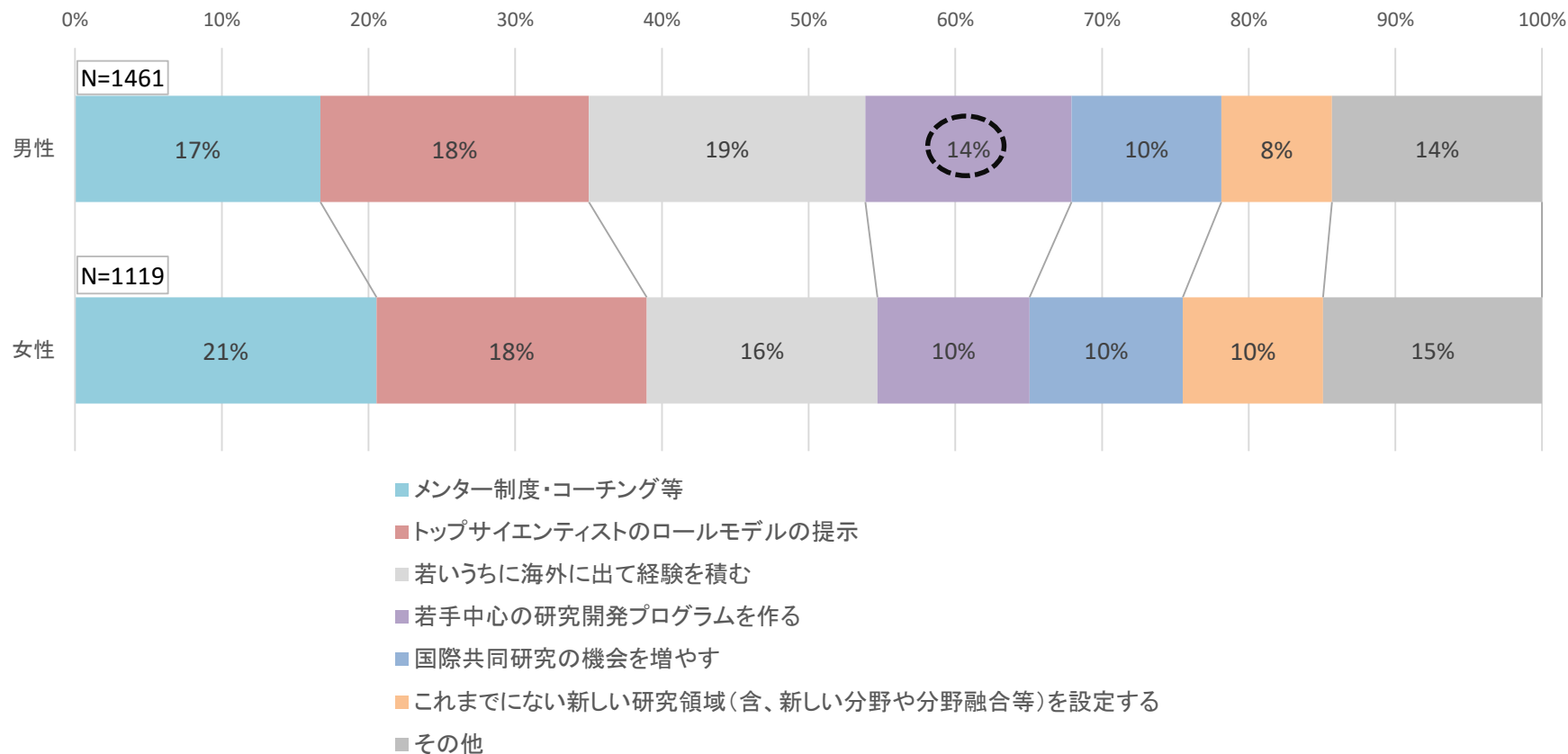


設問12

(21/23)

女性のトップサイエンティストを育成するために効果的と思われる方策はどれですか。(性別)

複数回答

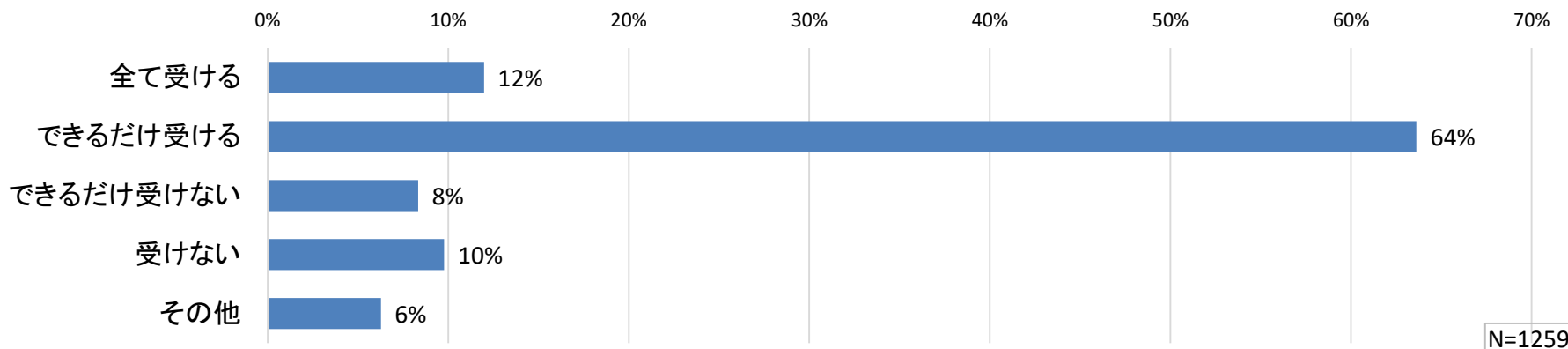


設問13

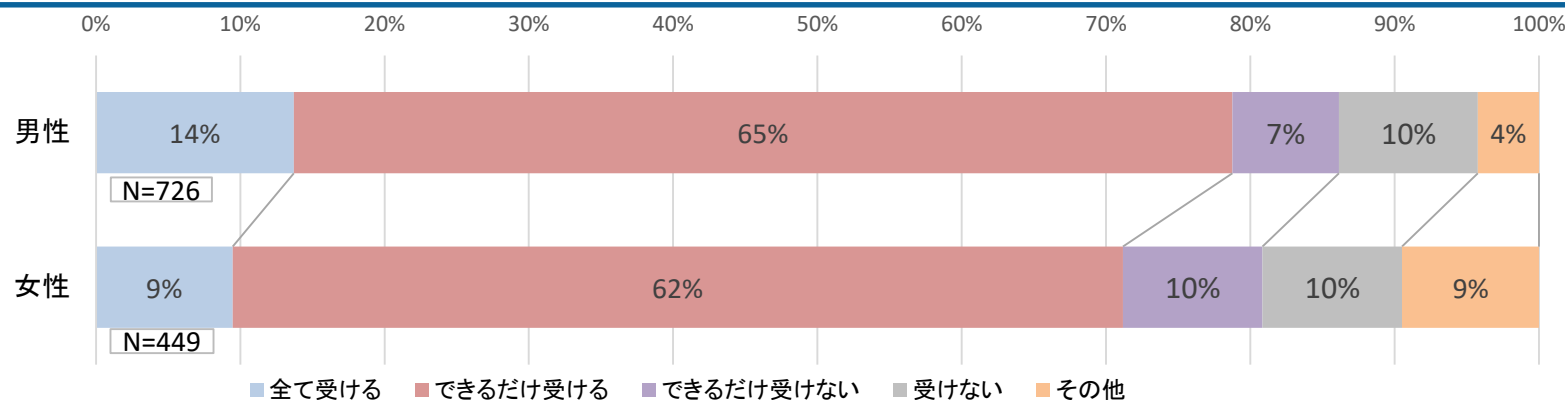
(22/23)

公的資金による研究開発プロジェクト等の審査委員を依頼されたら受けますか。

単回答



性別

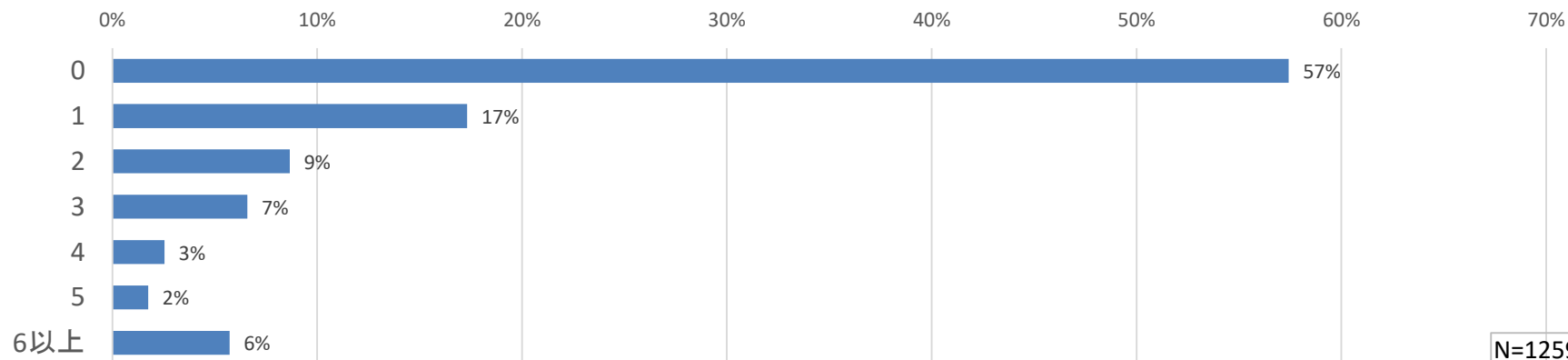


設問14

(23/23)

単回答

現在引き受けている外部委員(種類は不問)の数をお答えください。



性別

